

## 学習指導案(国語科・論理国語)

指導者：

- 1 対象
- 2 日時 2023年 6月7日(水) 3限
- 3 場所
- 4 単元名 『「内的成長」社会へ』上田紀行 p.28-35
- 5 単元について

### (1)単元の目標

- ・文ごと、段落ごとの繋がりやまとまりを把握し、文章の構成を理解する。
- ・具体例や繰り返し登場する言葉などを押さえ、筆者の主張を読み取る。
- ・これからの社会に対する自他との向き合い方から、今後の生き方を見つめ直す。
- ・「深い実存的なコミュニケーション」の機会を地域で設けるためには、どうすべきか意見を出し合い、考えをまとめる。

### (2)教材観

本教材は非常に現代的なテーマを取り上げている。まず、社会の現状とその課題が大きく分けて二つの観点から書かれており、次に筆者の考えるこれからの社会に必要な構造や一人一人の生き方が述べられている。身近な中間社会の話題から始まり、少しずつ社会全体へ論を展開している点が読み取りやすい。また、本文理解に留まらず実社会に関心を抱き、当事者として今後の生き方を考えさせられるようなものとなっている。

中には難しい言葉や概念が登場するが、簡単な単語で言い換えられていたり、筆者による定義がなされていたりするので、読解の中で意味を拾うことができるだろう。

### (3)生徒観

本クラスの生徒は明るく活気があり、授業中に板書の間違いや伝えそびれた小テストの日程を指摘できるなど、積極性も感じられる。一方で、授業内容に関する発問をする際、教科書本文に記載されている事柄については難なく答えられるものの、直接的な表現がない場合や記載されていない場合は、答えに詰まる生徒が多い。そのため、一つの発問を幾つかの段階に分けたり、答えに到達するための手掛かりを用意したりするなど、発問を工夫する。また、解答することに抵抗感を感じないよう間違えても良い雰囲気づくりに努める。

### (4)指導観

本文では同じ言葉でも使い分けされていたり、本来の語意とは異なる意味合いで使用されていたりするが、分かりやすく表記されているので、それらを取り上げて文脈から違いを捉えさせたい。

さらに、中盤から宗教的原理主義や新自由主義といった思想上の立場を表す言葉が登場するだけでなく、その具体例が序盤のもの比べてイメージしにくいものとなっており、理解が難しいと思われる。生徒が苦手意識を持たないように、板書で図式化したり、身近な例や実際のニュースを取り上げたり、意見交換等からも生徒の理解が深められるように努める。

## 6 単元の評価基準

A知識及び技能	思考力・判断力・表現力			E学びに向かう 人間性
	B聞くこと・ 話すこと	C書くこと	D読むこと	
①言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。【(1)ア】		①自分の言葉で書いている。 ②分かりやすく適切な表現を用いている。	①文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしな	①辞書などを用いず、語意を漢字の意味や本文中から判断している。
②論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。【(1)イ】		がら要旨を把握すること。【(1)ア】 ②指示語の内容を読み取れている。	②自分事として捉え、身近な地域の実態や自らの生き方を見つめ直している。	
③文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めること。【(1)ウ】				
④文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。【(1)エ】				
⑤身近な地域や自らの生き方を客観的に考察している。				

7 単元の計画(総時間 6時間)

次	時	学習活動	指導上の注意	評価基準	
一	1	<p>【第一段落の読解】</p> <p>◎”かつての社会構造”と”現在の社会構造”を比較する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近景/中景/遠景を図式化して説明する(個人からの距離感が分かるように)。</li> <li>・”かつての社会構造”に関する補足をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・”かつての社会構造”と”現在の社会構造”を理解している。(知A⑤)</li> </ul>	
	2	<p>【第二～三段落の読解】</p> <p>◎「」付きの自由が示す意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が言葉に「」を付ける狙いを考えさせる。</li> <li>・「「個」がむき出しにされている社会」がなぜ「非常にリスクの高い社会」なのかSNSを例に取り、自由の意味を含めて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「」付きの自由が示す意味を理解している。(読D③)</li> <li>・「「個」がむき出しにされている社会」がなぜ「非常にリスクの高い社会」なのかを理解している。(読D①)</li> </ul>	
二	3	<p>【第四～七段落の読解】</p> <p>◎なぜ「グローバリズムとナショナリズムや宗教的原理主義がコインの表裏だ」と言われているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コインの表裏とは何かを考えさせる。</li> <li>・グローバリズムやナショナリズムなどの思想上の立場について一緒に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの思想の特性(共通点・差異)を理解した上で、「コインの表裏」と言われている理由を理解している。(読D①)</li> </ul>	
本 時		4	<p>【第八～九段落の読解】</p> <p>◎これからの社会に必要となってくる「心の持ち方」とは何かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を用いながらワクワクや苦悩、生きる意味などの言葉を理解させる。</li> <li>・筆者の予測する社会(「生きる意味」を捨象して頭も感性も使わない社会)と、「内的成長」社会の違いを強調する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の予測する社会と「内的成長」社会との違いを理解した上で、「内的成長」について自分の言葉で説明できる。(C書く①②)</li> <li>・これからの社会に対する自他との向き合い方から、今後の生き方を見つめ直す。(学E③)</li> </ul>

次	時	学習活動	指導上の注意	評価基準
三	5	<b>【第十～十三段落の読解】</b> ◎筆者はなぜ「再」を強調しているのか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十、十二段落で「リメイク」「再創造」が繰り返し登場していることに気づかせる。</li> <li>・何を再創造、リメイクする必要があるのかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“かつての社会構造”の「中間社会」を復活させるわけではないことを理解している(読D①)。</li> <li>・これからの社会に対する自他との向き合い方から、今後の生き方を見つめ直す。(学E③)</li> </ul>
四	6	<b>【総括】</b> ◎「深い実存的なコミュニケーション」の機会を地域で設けるためには、どうすべきか意見を出し合い、考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文では社会の現状と課題、目指すべき社会について書かれているが、社会レベルで何をすべきか具体的に書かれていないことに気付いてもらう(=本文を批判的に捉えている)。</li> <li>・「実存的」の示す意味と一緒に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「実存的」の意味を理解している。(知A①)(学E①)</li> <li>・「深い実存的なコミュニケーション」の機会を地域で設けるためには何をすべきかを具体的に文章にできている。(書C①②)</li> </ul>

## 8 本事案(第一次 第4時)

### (1) 本時の目標

- ・「重大な問題」「生きる意味」とは何か、具体例から説明できるようになろう!

### 本時の展開

時間	学習活動	形態	指導上の注意点	評価基準
導入 5分	・前回のおさらい(四、五段落)	全体	・教科書やノートを見るよう促す。	
展開① 5分	<b>【五段落 残り】</b> ・「しかし、」(p.30 l.13～) aが進展すると、 bの意識も高まる →作者の言う「皮肉」を理解	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「皮肉」の意味を確認。</li> <li>・「皮肉」には二つの意味があるので、筆者がどちら</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文脈から「皮肉」の意味を読み取れる(学E①)。</li> <li>・なぜ皮肉かを説明できる(D読①)</li> </ul>

時間	学習活動	形態	指導上の注意点	評価基準
展開② 15分	→作者の言う「皮肉」を理解		の意味で用いているかを考えさせる。	・なぜ皮肉かを説明できる(D読①)
	◎コインの表裏(p.30 L.7) 問：「根底ではつながっている」とは？	全体	答：aとbが比例関係にある	
	【第六、七段落 読解】 ・第六、七段落を音読(代表で一人) ◎問：重大な問題とは？ 答： ①暴力に発展 ②「多様な意味」の圧殺の上に成り立っている。	個人 全体	・必要なら振り仮名を書くよう伝える。 ・重大な問題(p.30 L.16)とは何かを考えながら読ませる。	・自分の知らない言葉を知ろうとしている。(知A②)
	・【併存】(p.30 L.11) a：グローバリズム b：ナショナリズム b：宗教的原理主義	全体	・併存＝コインの表裏の言い換えを確認する。	・それぞれの言葉の意味から言い換え表現であることを理解している(E学①)。
・重大な問題(P.31 L.1) ①ロシア・ウクライナ問題を例に取る。 ②問：圧殺の言い換えは？ 答：捨象、忘れさせる	全体	・言葉選びに気を付け、深くまで踏み込まない。 ・「それと同様に」に注目させる。	・書かれている内容が、自分にとって身近な話題であると捉えられている(E学②)	
グローバリズムを例に取る (A社とB社の比較)		・「数字」の上に立脚している、多様な意味を生きることを捨象する(＝配慮しなくなる)を具体的に説明する。	・グローバリズムやナショナリズムの持つ性質を説明できる(D読①)。	

時間	学習活動	形態	指導上の注意点	評価基準
展開③ 15分	【八段落 読解】 ・第八段落を音読(代表して一人)	全体	・必要なら振り仮名を書くよう伝える。	・自分の知らない言葉を知ろうとしている。(知A②)
	・「数字信仰」(P.31 L.9)を ・数字→成績 ・生きる意味→学ぶ意義に置き換えて理解する。 (AさんとBさんの比較)	全体	・加えて「数字」を「日本人」(P.31 L.11)に置き換えた例も口頭で話す。	・書かれている内容が、自分にとって身近な話題であると捉えられている(E学②)
	◎つまり(P.31 L.12)以降の内容を板書する。	全体	・「自分の頭も感性も使わずに」(P.31 L.13)＝「手間を省く」を確認する。	・現代社会における問題点を説明できる(D読①)。
まとめ 5分	・本日のおさらい	全体	・教科書やノート、ワークシートを見るよう促す。	

# 「内的成長」社会へ

上田紀行うえだのりゆき

私たちは、この社会の中で様々なレベルで生きている。まず一人一人の個人として生き、家族の一員として生きている。それは私たちにとって最も「近い」世界であり、近い風景という意味で「近景」とも言うべきものだ。他方で私たちは日本という国家の一員として生きている。これは「遠景」と言ってもいい。その「近景」と「遠景」の中間に、いわば「中景」としてコミュニティは存在してきた。それは村や町のような地域社会であり、子どもたちが集まる学校であり、仕事の場としての会社などだ。しかし、そうやって挙げると、現在の日本で力を失<sup>ロ</sup>ってきているのがこの「中間社会」だということは明白だろう。かつて地域社会や村が私たちを支えてきた時代があった。しかし、今地域社会に支えられて生きていると思っている人がどのくらいいるだろう。かつては学校もコミュニティの中心だった。かつての会社も私たちの面倒を何から何までみてくれるものだった。仕事、お金、福祉、そして希望。しかし、現在の会社はもはやそうではない。会社と私

ロ 力を失ってきている」という状態を言い換えている二字熟語を、三ページ本文中から二つ答えよ。

ちのあの揺るぎない信頼関係はもはやそこにはないのだ。

こうした「中間社会」の凋落<sup>ちようらく</sup>は、新自由主義的なグローバリズムによってますます激しいものとなっていく。会社で隣に座っている同僚と私は生き残りをかけて争うライバルどうしだ。社長も会社の業績が一番いいときに会社を売って、億万長者となって逃走してしまう。その会社にいる間にできるだけ効率的に利益を引き出し、それができなくなれば報酬の高い会社に移ればいい。学校という場も、生徒一人一人の効率性を高める場として考えなければいけない。そして地域社会もその中で崩壊していく。もはや昔のムラのような、一人一人の自由を許さないような地域社会は私たちにとって抑圧にしか思えない。しかしそこから解放された都会の地域社会も既に地域社会とは呼べないような、隣に誰が住んでいるかも分からないような社会となってしまった。

そのように、私たちは今かつてのコミュニティの、「中間社会」の崩壊の時代を生きている。それは、コミュニティに支えられることなく、私たち一人一人の「個」がむき出しにされている社会だと言ってもいい。それは非常にリスクの高い社会でもある。今ま

\* コミュニティ 凋落  
リスク 投資



そのような素人に投資を任せれば、専門家の思うつぼになることは目に見えている。しかしそれが私たちの社会における「自由」である。「個」は中間社会から解放される代わりに、すべての責任を負わせられるのである。

人間はそもそも「支え」のない社会には生きていけない存在だ。しかし、そこに支えるべき「中間社会」はもはやない。ならばどうしたらいいのか。グローバリズムを論ずるときに、グローバリズムとナシヨナリズムや宗教的原理主義がコインの表裏だと言われるのは、そうした時代状況によるものだ。中間社会に支えを求められない私たちは、「遠い」レベルであった国家意識に支えを見出そうとする。コミュニティーへの帰属意識が失われ、むき出しになった「個」は、国家や宗教への帰属意識で何とか帰属感を満たそうとし、そこにナシヨナリズムや宗教的原理主義が生まれてくるのだ。

グローバリズムとナシヨナリズムや原理主義とはそもそも全く正反対のものである。国家の国境を越えていこうとするグローバリズムは、国家という一つのまとまりを解体していく方向性を持っている。しかし、グローバリズムが進展すればするほど、皮肉なことに、現実にはナシヨナリズムや原理主義の意識が各国で高まっていく。

しかし、世界におけるこのグローバリズムとナシヨナリズム・原理主義の併存は極めて重大な問題を含んでいる。

それは一つにはナシヨナリズムや原理主義が常に暴力性へと展開しやすいという構造を持っていることであり、それに関しては多くを指摘する必要はないだろう。しかしそれ以上にここで注目しておきたいのは、グローバリズムもナシヨナリズムも「多様な意味」の圧殺の上に成り立っているということだ。報酬という「数字」の上に立脚しているグローバリズムは私たちが多様な意味を生きていることを捨象するシステムだ。そしてそれと同様に「私たちは○○人だ。」といった同一性の意識のみを強調するナシヨナリズムや、一つの宗教的な立場のみを至高のものとする原理主義もまた、私たちが多様な意味を生きていることを忘れさせるシステムなのである。

「数字信仰」とは「生きる意味」を捨象して、横断的に通用する「数字」で物事を解決しようとすることである。この「数字」のところを「日本人」と入れ替え、「生きる意味」を捨象して、横断的に通用する「日本人」の意識で物事を解決しようとする」とすればそれはナシヨナリズムとなる。つまり、私たちの今向かっている社会は、「生きる意味」を捨象して、自分の頭も感性も使わずに、「数字」や「日本人」といったレベルで物事を解決しようとするような社会なのである。

私たち一人一人が固有の「生きる意味」を持っているということは、一人一人の「ワクワクすること」と「苦悩」を生きているということである。他者を尊敬あるものとして見

2 「重大な問題」とは何か。

\* 帰属 皮肉 立脚  
捨象 至高



るということは、他者の「ワクワクすること」と「苦惱」に対して鋭敏な感受性を持つということだ。そういった他者の「生きる世界」への内的感受性を育てる方向性ではなく、「数字」や「日本人」といった、頭も心も使わなくていいレベルで何とか社会の統合をはかるうとする、社会の活性化をもたらそうとする。「このごろの社会は思いやりを欠いていますねえ。」とか「最近の子どもたちは人の痛みが分からない。」とか嘆く声が多く聞かえてくるが、そういった、「内的成長」の次元を無視し、私たち一人一人の尊厳、かけがえのなさへの配慮を欠いた哲学で成り立っている社会が、「人の痛みが分からず」「思いやりを欠く」人々を生み出し、様々な深刻な問題を引き起こしているのはあまりに当然のことなのである。

とすれば、私たちの社会に今必要なことは、私たちの「生きる意味」をめぐるコミュニケーションの豊かさを取り戻し、「内的成長」を促す社会を再構成することだ。それは、個人のレベルで言えば、私たち一人一人が自分自身の「内的成長」への感受性を高めるとともに、他者の「生きる意味」への配慮ができる人間となることであろう。そして、社会的には、そうした個人レベルの意識に支えられながら、私たちの「生きる意味」を育むような中間世界、コミュニティーを再創造することである。

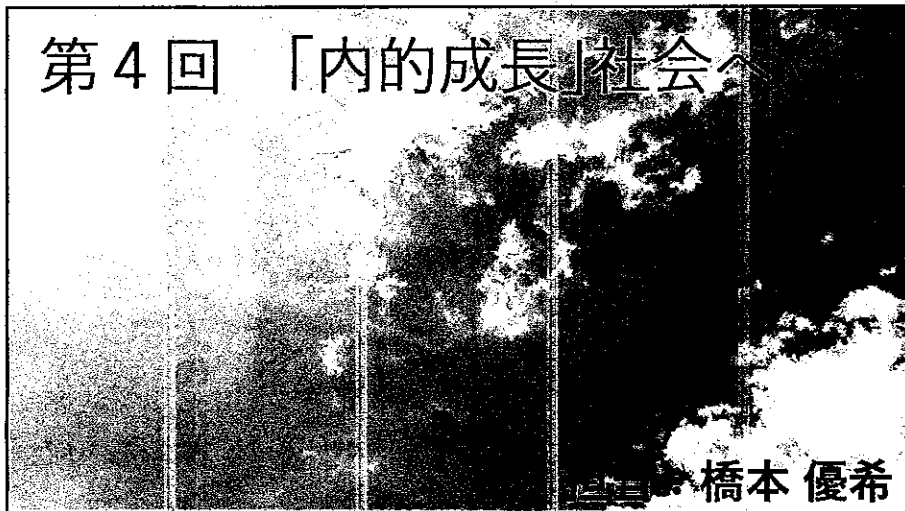
第二次世界大戦の敗戦は、「異なる意味を生きる人」への配慮を基軸にする社会への転換の好機だったと言える。しかし、実際はその後の経済成長時代における破竹の「勝利」によって、誰もが右肩上がり求めて生きてきたという、同質的な「生きる意味」を疑わない社会が温存されてしまった。そして、その社会のあり方は、日本国内の異質なものの固有の「生きる意味」を生きようとする人たちを抑圧し続けてきたのである。

私たちが今目指すべきは、かつてのコミュニティーの回復ではない。過去の美質を受け継ぎながらも、その抑圧構造をいったん破壊しそれをリメイクすること、再創造することが必要なのだ。

それは「私たちの生きる意味を育むコミュニティー」である。「ワクワクすること」を発見し、他の人の「ワクワクすること」と刺激し合つて、相乗的に実現していくようなコミュニティー。そして、「苦悩」を受けとめられ、深い実存的なコミュニケーションの中から自分の「生きる意味」を発見していけるようなコミュニティー。そうした「内的成長」をもたらすコミュニティーの再創造が今こそ求められているのである。

目「その抑圧構造」とは、どのような構造か。

\* 鋭敏 次元 破竹  
相乗(的) 実存(的)



1

五段落つづき。

皮肉 ←

【コインの表裏】  
根底では  
つながっている

比例関係

しかし、  
aの傾向…強  
bの傾向…強

(p.30 「13」)

一方の傾向が強まれば、  
もう一方の傾向が弱まる

2

六段落 (p.30 「15」)

a…グローバリズム  
b…ナショナリズム  
b…宗教的原理主義

併存 ←

↓ 重大な問題あり

3

七段落 (p.31 「1」)

重大な問題

① 暴力性に発展しやすい  
という構造を持つ

② 「多様な意味」の圧殺  
の上に成り立っている

私たちが多様な  
=

「生きる意味」の捨象

4

★補 足

「苦惱」とは？

「ワクワク」(理想)と

「現状」とのギャップに

よる違和感



「ワクワク」に気づく好機

生きる意味を創り直す好機

★補 足

「ワクワク」とは？

物事に特別な意味や

価値を感じ、強く心が

動かされる瞬間

現状 (p.32 「3」)

他者の「生きる世界」への

内的感受性を育てる方向性

でない。



「内的成長」の次元を無視



様々な

深刻な問題を引き起こす

理想 (p.31 「16」)

他者 || 尊厳あるもの

そのために・・・

① 鋭敏な感受性

② 内的感受性

③ 内的成長

が必要